

滝川市立江陵中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	滝川市立江陵中学校	(生徒数 307名)
小学校名	滝川市立滝川第一小学校	(児童数 209名)
	滝川市立滝川第二小学校	(児童数 270名)
	滝川市立江部乙小学校	(児童数 44名)

1 推進地域の状況

滝川市立江陵中学校区では、令和3年度から「中1ギャップ問題未然防止事業」の指定を受け、小・中学校で連携し、中学校入学後に増加する不登校生徒数の減少を目指した取組を進めてきた。

依然として、小学校及び中学校の不登校児童生徒数は増加傾向にあるが、各種アンケート調査やアセスメントツールの分析結果などから、取組の成果や課題について確認し、方向性を修正するなど、検証改善サイクルを機能させて取り組んできた。

今年度は、これまでの取組を一層充実させていくことを目標として、小・中学校でさらに連携を強め、不登校児童生徒数の減少に向けた取組を行っている。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

令和5年度の推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

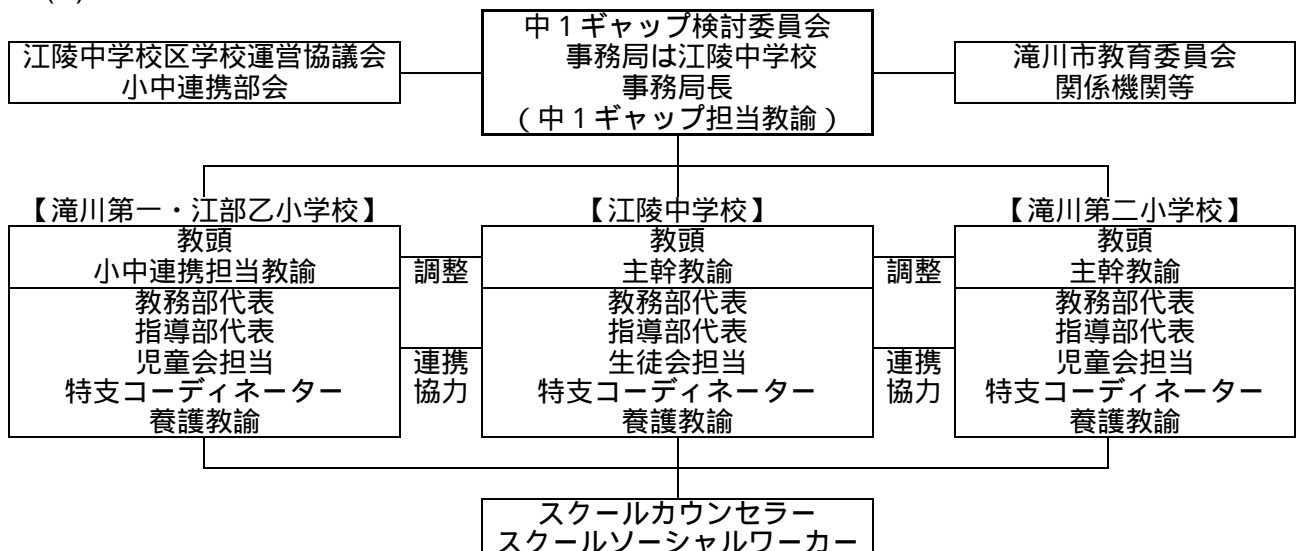
「自ら判断して行動することができ、他者とよりよい人間関係を築くことができる」

<取組内容を充実させるポイント>

一人一台端末等を活用した不登校児童生徒の支援
人間関係を築く力の育成に向けたピア・サポートの取組の充実や交流の場の設定
自殺予防教育に係るSOSの出し方に関する教育や「心と身体のチェックリスト」の活用
入学前・入学後アンケート等を活用した検証・改善の取組の充実

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・年4回、定期的に「中1ギャップ検討委員会」を開催し、本事業の進捗状況を確認するとともに、不登校児童生徒の支援策の具体について協議した。
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」を各小・中学校で年2回実施、「心と身体のチェックリスト」を中学校で年4回実施し、分析結果について各学校の生徒指導担当者と連携して分析を行い、不登校や自殺の未然防止策及び支援策の具体について協議した。
- ・外部講師を招聘し、不登校の予防・対応及びピア・サポートについて、教員を対象とした小中合同研修会を実施し、不登校の背景の理解や児童生徒の望ましい人間関係づくりに向けた取組についての理解を深めた。

(3) 加配教員の役割

- ・中1ギャップ検討委員会の企画・運営
- ・中1ギャップ解消に向けた小・中学校9年間を見通した教育課程の改善
- ・小・中学校の円滑な接続に向けた取組の検討・実施
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」や「心と身体のチェックリスト」、全国学力・学習状況調査など、各種アセスメントツールや調査の分析及び結果の情報共有
- ・一人一台端末等を活用した不登校児童生徒の支援策及び不登校未然防止策の作成・実施
- ・不登校対応やピア・サポートへの理解を深めるための小中合同研修会の企画・運営

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	滝川市立江陵中学校	滝川市立滝川第一・滝川第二・江部乙小学校
4月	【中心スタッフ打ち合わせ】 本年度の組織、年間計画、活動等の確認	
	全国学力・学習状況調査	全国学力・学習状況調査
5月	「Q-U」の実施、集計、分析	
	【第1回 中1ギャップ検討委員会】 本年度の推進地域の目標（小・中学校の重点目標）の設定 小学校第6学年児童の交流会 について 「ほっと」 の実施について 不登校傾向児童生徒の交流 について 入学前後アンケートの実施について オンライン学習支援の取組の交流 小中合同研修会 について	
	【第1回 江陵中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）】 本事業の説明と、小中連携部会への協力依頼	
6月	いじめアンケート の実施、集計 入学後アンケート の実施、集計	いじめアンケート の実施、集計 入学前アンケート の実施、集計
	第1回 校区一斉家庭学習週間の実施	

7月	<p>「心と身体のチェック」の実施 「ほっと」アンケートの実施、集計</p> <p>「ほっと」アンケートの結果分析、具体的な支援策の検討</p> <p>長期休業中における中学生による小学生への学習支援</p> <p>小中合同研修会（不登校の予防・対応について）の実施</p>	<p>小学校第6学年児童の交流会 「ほっと」アンケートの実施、集計</p>
8月	<p>【第2回 中1ギャップ検討委員会】 小学校第6学年児童の交流会 について いじめアンケートの結果について 「ほっと」の実施について 不登校傾向児童生徒の交流 について 自殺予防教育プログラムについて オンライン学習支援の取組の交流 入学後アンケートの実施について</p> <p>全国学力・学習状況調査結果分析 「心と身体のチェック」の実施</p> <p>全国学力・学習状況調査結果分析</p>	
9月	<p>「ほっと」プラスの実施、集計</p> <p>第2回 校区一斉家庭学習週間の実施</p>	
10月	<p>教育相談の実施 小学校への職場体験学習の実施 自殺予防プログラムの実施</p>	<p>教育相談の実施 中学生の職場体験学習の受入</p>
11月	<p>いじめアンケートの実施、集計</p> <p>第3回 校区一斉家庭学習週間の実施</p> <p>【第2回 江陵中学校校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）】 中1ギャップ問題未然防止事業の取組の報告 家庭学習週間の取組結果の交流</p>	<p>いじめアンケートの実施、集計</p>
12月	<p>入学後アンケートの実施、集計 「ほっと」アンケートの実施、集計</p> <p>「ほっと」アンケートの結果分析、具体的な支援策の検討</p> <p>「心と身体のチェック」の実施 小学校のピア・サポートの参観</p> <p>【第3回 中1ギャップ検討委員会】 いじめアンケートの結果について 入学後アンケートの結果について 不登校傾向児童生徒の交流 について 小中合同研修会 について オンライン学習支援の取組の交流 新入生説明会について</p> <p>長期休業中における中学生による小学生への学習支援</p>	<p>小学校第6学年児童の交流会 「ほっと」アンケートの実施、集計</p> <p>ピア・サポート（自殺予防教育）の実施</p>
1月	<p>小中合同研修会（ピア・サポートについて）の実施</p> <p>小学校第6学年と保護者対象の入学説明会・体験授業</p> <p>「心と身体のチェック」の実施 自殺予防プログラムの実施</p> <p>自殺予防プログラムの参観</p>	

2月	「ほっと」プラス の実施、集計 入学前アンケート の実施、集計 第4回 校区一斉家庭学習週間の実施 【第3回 江陵中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）】 家庭学習の手引「まなびのさかみち」更新 今年度の活動反省
3月	【第4回 中1ギャップ検討委員会】 入学前アンケート の結果について 不登校傾向児童生徒の交流 今年度の事業反省と次年度に向けて 「ほっと」を活用した小・中学校引継ぎ

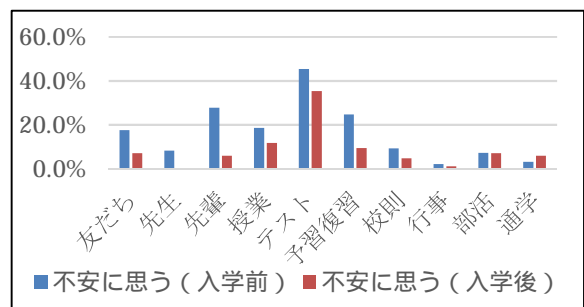
5 事業の成果

加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に、「ほっと」や全国学力・学習状況調査などのアセスメントツールや各種調査結果を分析し、小・中学校間で交流したことにより、推進地域の課題や中1ギャップ問題未然防止事業の取組の成果について共有することができた。

効果的な教育課程の改善

推進地域における「目指す子どもの姿」の実現に向け、自己肯定感を高めることなどの生徒指導の機能を活かし、学習活動やピア・サポートを計画的に取り入れた教育課程の改善を進めたことにより、12月に実施したアンケートでは、中学校入学前の2月に実施したアンケートより、ほぼ全ての項目で「不安に思う」と回答した生徒の割合が減少した。



【学校生活における不安についてのアンケート結果の比較】

アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

調査結果を踏まえ、否定的な回答が多い生徒に対して教育相談を実施したことにより、第2学年の全ての学級で「ほっと」の「相談」の項目において数値の向上が見られた。

	1回目（7月）	2回目（12月）
第2学年1組	3.3	3.5（+0.2）
第2学年2組	3.3	3.4（+0.1）
第2学年3組	3.1	3.3（+0.2）

【「ほっと」の「相談のしやすさ」に関する項目の変化】

教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

加配教員が中心となって、自殺予防教育を実施したことにより、第2学年と第3学年の全てのクラスで、「ほっと」の「仲間強化因子得点」で数値の向上が見られた。

	1回目（7月）	2回目（12月）
第2学年1組	51.3	53.0（+1.7）
第2学年2組	49.6	50.4（+0.8）
第2学年3組	47.4	48.4（+1.0）
第3学年1組	55.0	56.6（+1.6）
第3学年2組	48.9	51.8（+2.9）
第3学年3組	56.3	57.5（+1.2）

【「ほっと」の「仲間との関係づくり」に関する項目の変化】

6 今後の課題と対応

今後の組織体制

指定事業が終了する次年度以降も中1ギャップ未然防止の取組を継続していくため、中1ギャップ検討委員会に代わる新たな組織体制を、中学校区で構築する必要がある。

北広島市立西部中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 北広島市立西部中学校（生徒数 143 名）
小学校名 北広島市立西部小学校（児童数 181 名）

1 推進地域の状況

北広島市立西部小学校と北広島市立西部中学校は、平成30年度から小中一貫教育を進めており、令和3年には小中一貫教育全国サミットを開催するなど、「心豊かに大志をいただき、たくましく生きる子ども」の育成に向けて、小・中学校と地域が一体となり実践を積み上げてきた。

一方で、施設隣接型の小中一貫型小・中学校の固定的な人間関係が原因で、悩みや不安を抱え不登校になったり、いじめが起きたりする場合があることから、小・中学校の全教職員で生徒指導の在り方についての共通理解や安心・安全な学校風土の醸成、不登校の傾向にある児童生徒に対する情報共有を含めた早期対応の充実など、中学校進学に向けた円滑な連携体制の構築に向けた取組を進めている。

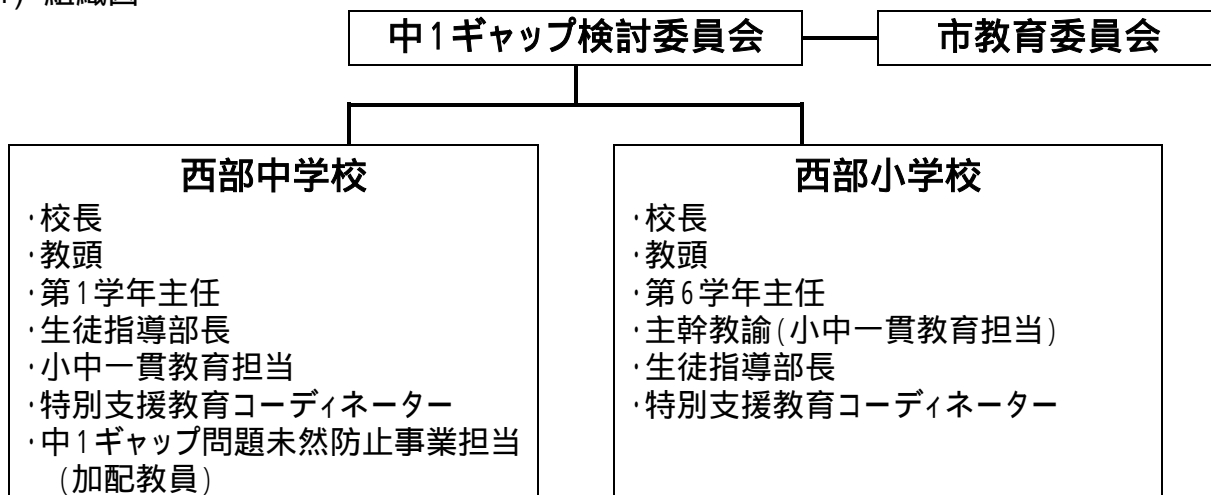
2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

小・中学校の連携体制を構築し、学習指導や生徒指導など教育活動の改善・充実を図ることにより、児童生徒のよりよい人間関係を築く力を育成する。

不登校をはじめとする生徒指導上の諸課題の解決に向けて、中学校区における中1ギャップの解消や未然防止を図る。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・推進地域の中学校区を単位とした「中1ギャップ検討委員会」の設置及び定期的な開催
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」、「コンパス」、生活アンケート、授業アンケート、全国学力・学習状況調査、児童・生徒質問紙、不登校等に関する各種調査の結果等、客観的なデータに基づくPDCAサイクルの確立
- ・中学校区の中1ギャップ解消プランの作成
- ・事例研究や実践交流など、生徒指導に関する小・中学校合同の研修会の実施

(3) 加配教員の役割

- ・中1ギャップ検討委員会の企画・連絡・調整
- ・小・中学校9年間の教育課程の編成
- ・「ほっと」や生活アンケート、全国学力・学習状況調査、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査等の各推進校の分析結果の集約及び推進地域等の分析
- ・調査等の結果を踏まえた、中1ギャップ解消プランの改善
- ・新たな不登校を生まないための魅力ある学校づくりに向けた取組の企画・立案及び取組の推進
- ・不登校児童生徒に対するチームでの支援の実施

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	北広島市立西部中学校	北広島市立西部小学校
4月	小・中学校9年間を見通した教育課程の編成 中1ギャップ検討委員会設置	
5月	第1回中1ギャップ検討委員会 ・目標、取組内容、役割分担等の確認 中1ギャップ問題未然防止事業第1回運営協議会 ・各推進地域の計画や加配教員の活用状況について交流 「ほっと」 SOSの出し方に関する教育講演会 小・中学校合同の生徒指導交流会	
6月	生徒アンケート 小・中学校で「ほっと」のデータ分析交流会 ・各推進校の「ほっと」の分析結果の集約及び交流	児童アンケート いじめアンケート 生活アンケート 授業アンケート 教育相談
7月	いじめ撲滅集会（小学校・中学校）シトラスリボン作成 ・差別や偏見の防止を目的としたシトラスリボンの作成と地域への配付 アセスメントツール「心と身体のチェック」 小学校第6学年及び中学校の第3学年コミュニティ・スクール(CS)合同防災訓練	
8月	アセスメントツール「心と身体のチェック」 第2回中1ギャップ検討委員会 ・中間反省と不登校児童生徒へのチームによる対策を検討 ・中1ギャップ解消プランの検証・改善 ・魅力ある学校づくりに向けた取組の企画・立案	

9月	<p style="text-align: center;">小学校第4学年及び中学校第1学年のCS地域安全マップづくり</p>	
10月	<p style="text-align: center;">小学校第5学年及び第6学年の第1回部活動体験</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p style="text-align: center;">【部活動体験における交流の様子】</p>	
11月	<p style="text-align: center;">「ほっと」 いじめアンケート</p> <p style="text-align: center;">小学校第5学年及び中学校第2学年のCS災害図上訓練</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p style="text-align: center;">【CS災害図上訓練における交流の様子】</p> <p style="text-align: center;">保護者アンケート 教育相談</p>	
12月	<p style="text-align: center;">生徒アンケート</p> <p style="text-align: center;">「心と身体のチェック」 授業アンケート</p>	<p style="text-align: center;">児童アンケート</p> <p style="text-align: center;">中1ギャップ問題未然防止事業第2回運営協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校第1学年のスクールカウンセラーによる特別活動の授業及び小学校第6学年の体験授業 ・これまでの取組についての発表 ・管理職、加配教員、中1ギャップ検討委員会メンバーとの協議
1月	<p style="text-align: center;">小・中学校で「ほっと」のデータ分析交流会</p> <p style="text-align: center;">児童会・生徒会交流会</p>	
2月	<p style="text-align: center;">小学校第5学年及び第6学年の第2回部活動体験</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p style="text-align: center;">【部活動体験における交流の様子】</p> <p style="text-align: center;">「心と身体のチェック」</p>	
3月	<p style="text-align: center;">第3回中1ギャップ検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の取組に関する反省 ・新入生情報交流及び新年度計画 	

5 事業の成果

加配教員を配置したことによる成果

- ・加配教員を中心に、中1ギャップ検討委員会の企画・連絡・調整を行い、外部機関と連携したことにより、不登校の未然防止や早期発見・早期対応を図ることができた。
- ・加配教員を中心に、小学校の主幹教諭及び教務主任と連携し、9年間の教育課程編成の方針を各推進校で示したことにより、年間指導計画の改善を図ることができた。
- ・「全国学力・学習状況調査」、「ほっと」、「心と体のチェック」等の分析結果について、小学校と情報共有を行ったことにより、小・中学校間で共通理解を深めることができた。

効果的な教育課程の改善

- ・児童生徒数の減少に伴う変化に対応するため、小・中学校で連携し、CSの取組を通して「魅力ある学校づくり」を推進することができた。
- ・各教科等の系統性を明らかにした小・中学校9年間の教育課程の編成や教員による相互乗り入れ指導の実施などにより、授業改善の取組を推進することができた。
- ・小・中学校で統一した家庭学習の手引を作成したことにより、家庭における学習の習慣付けを図ることができた。

アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

- ・長期休業前と長期休業後の比較で、否定的な変容が見られる生徒に対して教育相談を実施したことにより、生徒の心身の状態を具体的に把握することができた。
- ・「心と身体のチェック」の結果について、全個票データと集計データを基に全教職員で共有したことにより、生徒の心身の状態について、客観的に把握することができた。

教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

- ・「一人一人考え方は異なり、誰もが尊重され、誰とでも相談し合える」集団づくりを目指して、年間3回、各学年でスクールカウンセラーによる特別活動の授業を行ったことにより、「ほっと」における「相談(悩みを相談)」の項目において、中学校の全ての学年で数値が向上するなど、互いに尊重し合うコミュニケーションスキルを育成し、相談しやすい雰囲気を醸成することができた。

項目	悩みを相談する(相談)		
	1回目	2回目	増減
中学校全体	3.3	3.6	+0.3
第1学年	3.4	3.7	+0.3
第2学年	3.1	3.4	+0.3
第3学年	3.4	3.8	+0.4

【「ほっと」における「相談(悩みを相談)」の変化】

6 今後の課題と対応

不登校児童生徒の減少に向けた取組の充実

- ・目標である不登校児童生徒数を半減させることについては達成することができなかったことから、校内教育支援センターや個別学習室等の、多様な学びの場を設置することにより、登校を促すなど、社会的自立に向けた指導・援助を行う必要がある。
- ・中学校第1学年の特別支援学級に在籍している生徒の半数が不登校であることから、小・中学校の特別支援教育コーディネーターの情報共有を進める必要がある。

不登校児童生徒に対するチームでの支援の実施について

- ・校内教育支援センターの開設に向けて、加配教員が中心となり、関係機関と連携し、教室環境や指導体制の整備を進める必要がある。

小樽市立松ヶ枝中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 小樽市立松ヶ枝中学校（生徒数 188 名）
小学校名 小樽市立山の手小学校（児童数 388 名）

1 推進地域の状況

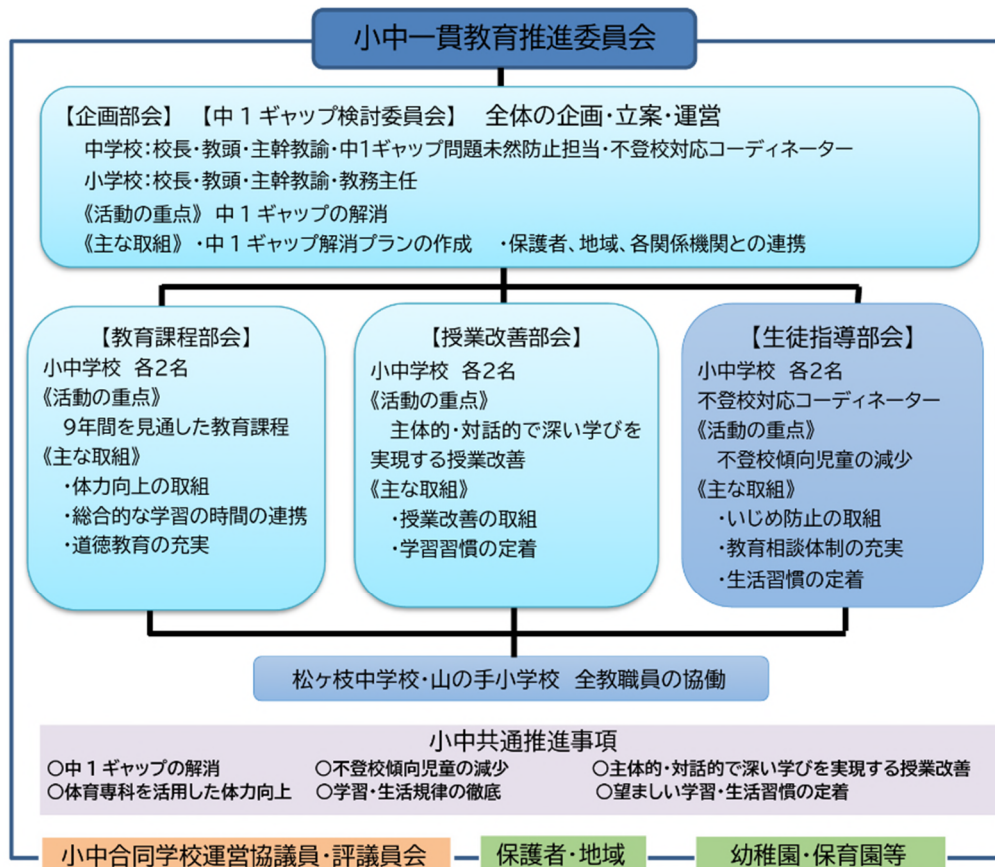
松ヶ枝中学校区の不登校児童生徒数は、新規数に比べ継続数が多く、長期化の傾向が見られる。不登校の要因としては、基礎的な学力不足や学習習慣の未定着なども挙げられるが、生活環境等に係るものも多い。そのため、学級担任による丁寧な対応はもとより、小樽市こども未来部、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、道警少年サポートセンター、中央児童相談所等の関係機関と連携を図りながら対応している。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 小・中学校の目標
 - ・「つなぐ」ことで、山の手地区の学校出身であることに誇りがもてる学校環境づくり
 - 9年間で目指す子ども像
 - ・主体的に学びつづける姿 ・礼儀正しくあいさつする姿 ・元気よくたくましい姿
 - 令和5年度の小・中学校の学校経営の重点
 - ・「自分の可能性を感じ、自己成長を目指す」「自律的に行動できる人を目指す」
- ～小中一貫教育の推進～

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図




(2) 事業推進体制の整備に関する取組



- ・小中一貫教育推進委員会の中に位置付けた「中1ギャップ検討委員会」の定期開催
- ・小中合同研修会の開催
- ・小・中学校9年間を見通した教育課程（単元配列表）の編成
- ・配慮が必要な児童生徒の情報共有及び支援体制の整備
- ・合同授業や児童生徒の交流など児童生徒が主体となった取組の充実

(3) 加配教員の役割

- ・中1ギャップ検討委員会の企画、連絡、調整
- ・小・中学校9年間の教育課程の編成
- ・各種調査の集約、分析
- ・中1ギャップ解消プランの作成、改善
- ・魅力ある学校づくりに向けた取組の推進
- ・スペシャルサポートルームの設置、運営
- ・不登校児童生徒に対する組織的な支援

4 中1ギャップ解消プランの実際の構成

時 期	松ヶ枝中学校	山の手小学校
4月	中1ギャップ検討委員会	
	中学校授業改善による体力向上に係る検討	
5月	中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会	
	子ども理解支援ツール「ほっと」 山の手陸上クラブとの連携(9月まで)	
6月	中1ギャップ検討委員会	
7月	小学校第6学年の中学校授業参観（総合的な学習の時間発表会） 体育・保健体育における教育課程の連携	
	体力・運動能力向上プランの検討 中1ギャップ解消アンケート 生活アンケート 心と身体のチェック	子ども理解支援ツール「ほっと」 中学校教員による水泳授業補助
8月	授業参観交流週間（小 中） 中1ギャップ検討委員会 北海道教育委員会事業視察 学習規律に関わる指導連携協議	
	心と身体のチェック スペシャルサポートルーム設置	【スペシャルサポートルーム】 
9月	自殺予防教育プログラム（SOSの出し方に関する教育） 小学校第6学年の中学校授業参観（音楽発表会） 生活規律に関わる指導連携協議	
		中学校教員による水泳授業補助

10月	自殺予防教育プログラム(SOSの出し方に関する教育)	
	自殺予防教育プログラム(SOSの出し方に関する教育)	
11月	部活動体験会 新入生体験入学	[小学生による中学校の授業見学]
	部活動体験会 小中合同研修会	
12月	スクールカウンセラーによる自殺予防講話 子ども理解支援ツール「ほっと」	中学校教員による算数授業乗り入れ指導
	スクールカウンセラーによる教員研修 心と身体のチェック 「ほっとプラス」 自殺予防教育プログラム(SOSの出し方に関する教育) 中1ギャップ解消アンケート 生活アンケート	中学校教員による算数授業乗り入れ指導 
1月	教育相談体制の実践交流 中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会 ・ 中1ギャップ検討委員会	[中学校教員による乗り入れ指導]
	授業参観交流週間(中 小)	
2月	心と身体のチェック 「ほっとプラス」	中学校教員によるスキー授業補助
	中1ギャップ検討委員会	中学校教員によるスキー授業補助 中学校教員による算数授業乗り入れ指導
3月	小中一貫教育推進委員会全体会	

5 事業の成果

加配教員を配置したことによる成果

- ・加配教員を中心に、校内生活指導委員会を運営し、小学校や外部機関と連携した組織的な対応を行ったことにより、昨年度まで小学校で不登校だった生徒が、1名登校できるようになった。
- ・加配教員を中心に、スペシャルサポートルームを設置・運営し、教室で授業を受けることが難しい生徒や別室登校を希望する生徒の居場所を確保したことにより、生徒に寄り添ったきめ細かな対応が可能となり、不登校生徒が登校できるようになった。

効果的な教育課程の改善

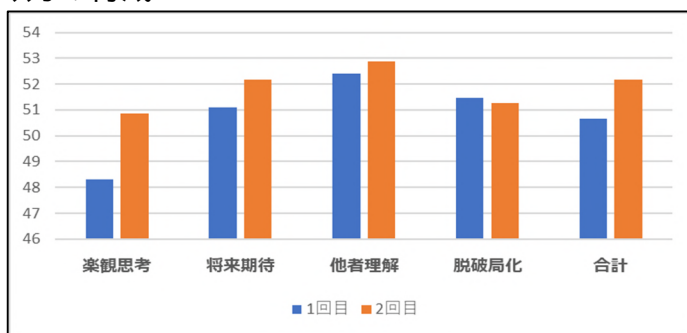
推進地域における目指す子どもの姿に向け、9年間を見通して育成する資質・能力を踏まえて教育課程を改善したことにより、総合的な学習の時間と体育・保健体育、ICT活用に関する技能の9年間の系統表を作成するとともに、共通した目標設定及び取組を行うことができた。

アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

アセスメントツール「心と身体のチェック」を年間4回計画・実施し、加配教員が中心になって集計・考察を行ったことにより、長期休業前は、様子が気になる生徒を抽出して職員間で情報共有するとともに、休業中に学級担任が連絡し、生徒の様子を把握することができた。また、長期休業前後の結果の変化から気になる生徒への対応を不登校対策委員会で協議するなどの組織的な対応ができた。

教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

スクールカウンセラーによる自殺予防講話や、年間4回のSOSの出し方に係る学習を教育課程に位置付け、加配教員、スクールカウンセラー、学級担任が連携して実施したことにより、ストレス対処能力の育成を図ることができた。



【「ほっとプラス」実施結果】

6 今後の課題と対応

より魅力ある校区をつくるための取組

中学校第3学年に対する全国学力・学習状況調査生徒質問紙から、「学校に行くことは楽しい」と回答した生徒は全国の割合に比べると上回っていることが分かったが、目標である90%を達成することができなかった。また、いじめ把握のためのアンケート調査では、「いじめはどんなことがあっても許されない」という設問に対し、「そう思う」と回答しなかった生徒が少数いることが分かったことから、生徒が自分たちでルールを作り、規範意識を育てていく等の自己決定の場や、自己有用感を感じられる場面を学校の教育活動全体を通じて計画的に行い、より魅力的な学校づくりを目指す必要がある。

学びをつなぐ取組

中学校第1学年の「中1ギャップアンケート」から、中学校第1学年が最も困り感を抱いていることは、学習面であることが分かった。学習面でのギャップの解消のため、引き続き小・中学校合同で授業改善の取組を推進していく必要がある。

令和5年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙において 「あてはまる」と回答した生徒の割合(%)		
質問項目	本校	全国
学校に行くのは楽しい	45.9	43.3
自分にはよいところがあると思う	47.5	37.2
先生は、あなたのよいところを認めてくれる	52.5	40.0
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う	65.6	43.7
友だち関係に満足している	59.0	55.3
11月いじめ把握のためのアンケート調査		
いじめはどんな理由があっても許されない	96.6	

登別市立鷺別中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 登別市立鷺別中学校（生徒数 272 名）
小学校名 登別市立鷺別小学校（児童数 221 名）
登別市立若草小学校（児童数 299 名）

1 推進地域の状況

本推進地域では、人間関係を築くためのきっかけをつくることができずに孤立感を覚えたり、周囲の目を気にするあまり、強い不安感に襲われたりして、教室に入れなくなる児童生徒や、ゲームやスマホ依存による昼夜逆転の生活が原因で、遅刻や欠席が増える児童生徒が増加している。また、学習内容の難しさや提出物の期限等に直面し、体調不良を訴え始め、遅刻、欠席が増え始めるケースが中学校で特に多く見られる。このようなことから、保護者の啓発のみならず、幼保小中の緊密な連携や関係機関の活用をより一層充実させる必要がある。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

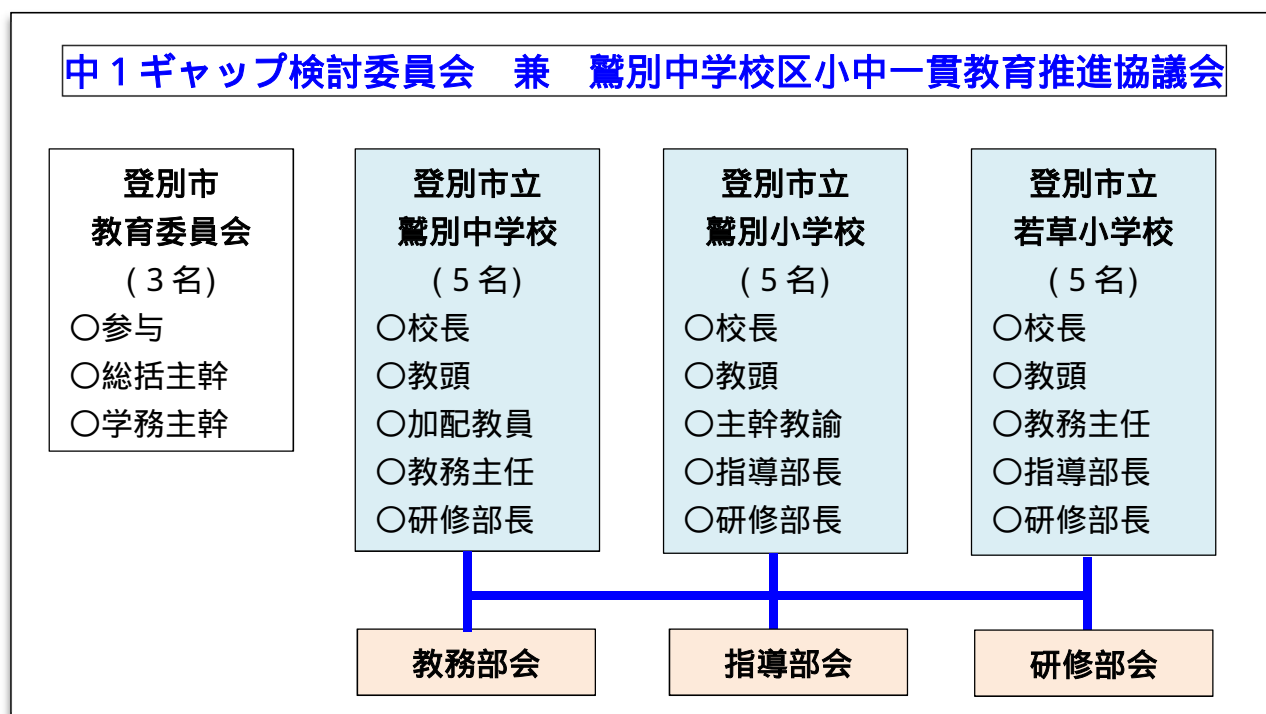
「受け入れ合い、支え合い、高め合う生徒」（鷺別中学校区で目指す 15 歳の姿）

～互いの考えや意見を尊重した発言・行動を通して～

- (1) 「意見を伝える（表明）力」の向上のための取組
- (2) 「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する態度」の向上のための取組
- (3) 「自分と違う意見について考えることは楽しいと捉える態度」の向上のための取組

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



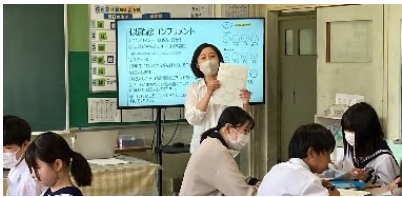
(2) 事業推進体制の整備に関する取組


- ・「中1ギャップ検討委員会」の開催に係り、協議に時間を要する案件について、3校の校長及び加配教員による事前協議及び原案の作成
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」、生活アンケート、全国学力・学習状況調査の分析結果等、客観的なデータに基づく検証改善サイクルの確立
- ・調査等の分析結果について、ICTを活用し、各学校が事前に検討委員会に送信及び共有するなど迅速な情報の交換

(3) 加配教員の役割

- ・調査等の分析及び分析結果を踏まえた指導方針の作成・改善
- ・調査等の分析結果を踏まえて、中学校区における生活習慣の定着に向けた資料及び学習のきまり学年系統表の周知と徹底
- ・児童生徒及び保護者を対象とした、中1ギャップに関するアンケートの実施と集約

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	登別市立鷺別中学校	登別市立鷺別小学校・登別市立若草小学校
4月	3校校長会議 ・小中一貫教育推進全体構造図と整合性のとれた学校経営計画等 携帯電話やスマートフォン等についてのアンケート（登別市教育委員会） ・調査の実施とルールの指導及び啓発等 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙 ・結果の集約と経年比較等	
5月	令和5年度中1ギャップ問題未然防止事業第1回運営協議会 ・事業推進の方向性の確認等（加配教員及び管理職参加） 第1回中1ギャップ検討委員会兼鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会 ・年間事業計画の確認等	
6月	自殺予防教育プログラム （スクールカウンセラー特別授業） ・第1学年：援助希求的態度の育成 ・第2学年：早期の問題認識（心の健康） ・第3学年：ストレス対処能力の育成	 【授業の様子】
7月	子ども理解支援ツール「ほっと」1回目 ・校区3校児童生徒を対象に調査の実施と分析等	
	子ども理解支援ツール「ほっとプラス」1回目 ・中学校第3学年を対象に調査の実施と分析等	
	第2回中1ギャップ検討委員会兼鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会 ・全国学力・学習状況調査質問紙及び「ほっと」1回目の結果分析等	
	「心と身体のチェック」(夏休み前) ・中学校全学年を対象に調査の実施と分析等	

時 期	登別市立鷺別中学校	登別市立鷺別小学校・登別市立若草小学校
8月	子ども理解支援ツール「ほっとプラス」2回目 ・中学校第3学年を対象に調査の実施と分析等 「心と身体のチェック」(夏休み明け) ・中学校全学年を対象に調査の実施と分析等 「アセス」・「ほっと」の結果を活用した生徒理解研修 (中学校) ・生徒への共感的態度を重視した生徒指導についての協議等	
9月	集団カウンセリング研修 ・児童生徒のコミュニケーションスキルの向上等(加配教員参加)	
10月	第3回中1ギャップ検討委員会兼鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会 ・後期の具体的な取組と検証方法の確認等 第1回鷺別中学校新入生体験入学 ・中学校第1学年授業参観、生活のきまりや生徒会行事説明、部活動見学等	
11月	第2回鷺別中学校新入生体験入学 ・英語と数学の体験授業等(各50分)	 <p>【合同研修の様子】</p>
12月	令和5年度中1ギャップ問題未然防止事業 第2回運営委員会兼鷺別中学校区合同研修 8月から延期実施 ・全体会(加配教員による説明)と6分科会の開催等 新入生保護者説明会 ・中学校第1学年授業参観、入学に係る各種説明等 子ども理解支援ツール「ほっと」2回目 ・校区3校児童生徒を対象に調査の実施と分析等 中1ギャップに係るアンケート ・小学校第6学年児童・保護者、中学校第1学年生徒・保護者を対象に調査の実施と分析等	
	「心と身体のチェック」(冬休み前) ・中学校全学年を対象に調査の実施と分析等	
1月	「心と身体のチェック」(冬休み明け) ・中学校全学年を対象に調査の実施と分析等	
	第4回中1ギャップ検討委員会兼鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会 ・中1ギャップに係るアンケート及び「ほっと」2回目の結果分析等 鷺別中学校区相互授業参観 ・3校教員による小学校第6学年及び中学校第1学年の授業参観	
	「アセス」・「ほっと」の結果を活用した生徒理解研修 (中学校) ・生徒への共感的態度を重視した生徒指導についての協議等	

時 期	登別市立鷺別中学校	登別市立鷺別小学校・登別市立若草小学校
2月	第5回中1ギャップ検討委員会兼鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会	
	・今年度の成果と課題、次年度の方向性等	
3月	新入生に係る引継ぎ	
	・学習・生活の様子、交友関係、特別な配慮を要する児童に係る情報共有等	
	3校校長会議	
	・令和6年度学校経営計画作成に係る確認事項等	

5 事業の成果

加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に、子ども理解支援ツール「ほっと」や全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査等のアセスメントツール及び中1ギャップに係るアンケートの結果を分析し、中1ギャップ検討委員会や合同研修において、分析結果を共有した上で交流したことにより、推進地域の課題や中1ギャップ問題未然防止事業の取組成果等について共通理解を深めることができた。

効果的な教育課程の改善

推進地域における「目指す15歳の姿」の実現に向け、9年間を見通して育成する「共通実践項目」を設定し、3つの分科会（教務部会・指導部会・研修部会）によるリーダーシップのもと、各校が実践を積み重ねたことにより、児童生徒の学習指導及び生徒指導の方向性が明確になり、小・中学校が一体となった取組を推進することができた。

	R3/6月	R5/12月	3年間の増減
鷺別小6年	2.9	3.2	+0.3
若草小6年	2.7	3.0	+0.3
鷺別中3年	2.8	3.1	+0.3

【「ほっと」における「意見を伝える力」(表明)の同一集団の変容】

アセスメントツール「心と身体のチェック」の活用

夏季休業及び冬季休業前後に実施した「心と身体のチェック」の結果を分析し、否定的な回答が多い生徒に対して、教育相談を実施したことにより、生徒の悩みや不安に対してきめ細かな支援を行うとともに、教職員が組織的に取り組むことができた。

教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

特別活動において、スクールカウンセラーが主体となり、自殺予防教育プログラムを中学校全学年で実施したことにより、生徒からストレス解消や援助希求的態度の育成に向けた肯定的な回答が多く聞かれるなど、自殺予防教育を充実させることができた。

6 今後の課題と対応

○ 入学後の不安を解消する家庭との連携

児童生徒及びその保護者が、入学後の不安や悩みが少しでも解消されるよう、家庭との連携を推進するため、中1ギャップに係るアンケートの調査結果や分析結果を3校の教員で共通理解を図るとともに、各種懇談会や小中一貫教育たより等を通じて、その内容を発信し、周知する必要がある。

様似町立様似中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 様似町立様似中学校（生徒数 75名）
小学校名 様似町立様似小学校（児童数 144名）

1 推進地域の状況

様似町は、日高管内東部に位置し、人口が約4,000人である。町内には、小学校1校、中学校1校があり、各校とも全学年単学級のため、児童生徒は、小学校入学から中学校卒業まで、ほぼ同じメンバーで過ごしている。

また、平成29年度から施設分離型小中一貫校とし、9年間を見通した教育活動の推進に取り組んでいる。

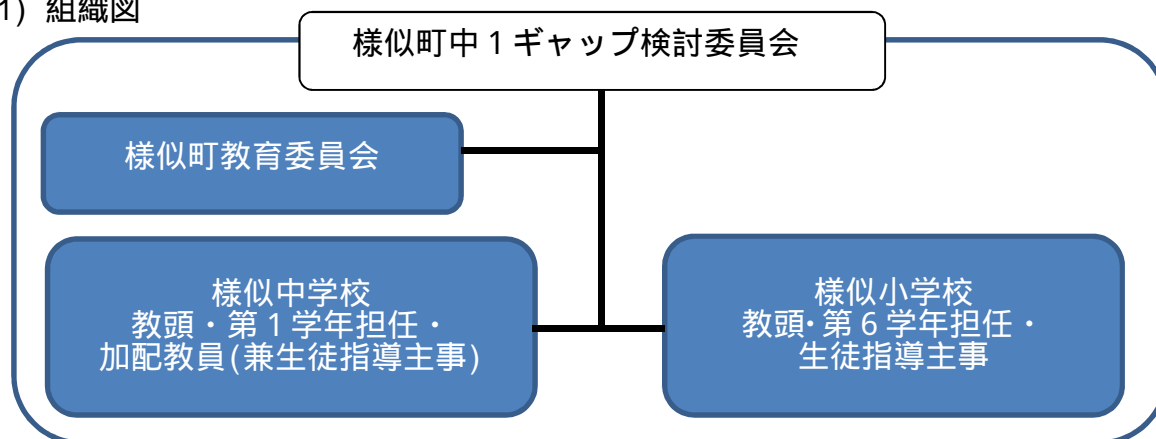
全国学力・学習状況調査において、全国・全道平均正答率と比較し、思考力・判断力・表現力の定着に課題が見られるとともに、児童生徒質問紙調査において、家庭学習時間が全国平均を下回るとともに、スマートフォンやゲームに費やす時間が、全国平均を大きく上回っていることから、思考力・判断力・表現力の向上に向けた授業改善及び生活習慣の改善が課題である。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 授業や各種行事を通じて、よりよい人間関係を築くために必要な社会的スキルを育成する。
- (2) 小・中学校間のギャップをなくすことはもとより、変化に対応できる人間性や忍耐力、寛容性を育成する。
- (3) 小・中学校で、学習規律、生活規律の改善について、統一した取組を行うとともに、改善のための取組内容を、家庭と共通理解を図ることで、学校と家庭が連携して、児童生徒の指導に当たることができる体制づくりを推進する。
- (4) 小学校第6学年児童が中学校へ定期的に登校する取組（以下、「6年生登校」）の際、中学校教員が、乗り入れ授業を行ったり、総合的な学習の時間等で、中学生と交流する機会を設定したりすることで、児童生徒だけでなく、小・中学校の教職員がもつ学校間の垣根を低くし、義務教育9年間を見通した教育課程の充実を図る。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・「中1ギャップ問題未然防止連絡会議」における、各校の不登校児童生徒についての実態交流及びICTを活用した学びの保障等の対応策の検討（月1回）
- ・「いじめ防止対策委員会」における、各校のいじめの状況についての情報交換及び対応策の検討
- ・「6年生登校」における、中学校教職員による小学校第6学年児童への乗り入れ授業の実施

(3) 加配教員の役割

- ・「6年生登校」等、中1ギャップ問題未然防止に係る具体的な取組を実施する際の、各学校への周知及び連絡調整
- ・「中1ギャップ問題未然防止連絡協議会」の招集、企画及び運営
- ・「いじめ防止対策委員会」における、不登校問題を抱える児童生徒への対応策の検討
- ・中学校の「全校総合学習発表会」への、小学校第6学年児童の参加に係る連絡調整及び学習内容に係る研修の企画
- ・「自殺予防教育プログラム」に係る校内研修の講師及び実施計画の作成に係る校内の連絡調整
- ・3日連続の「6年生登校」(ロングラン登校)における、小学校第6学年への「学年末テスト(中学校教員が作成したテスト問題による、小学校第6学年児童への模擬定期テスト)」の作成・実施に係る連絡調整

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	様似中学校	様似小学校
3月	新入学生徒に関する引継ぎ(様似小学校と実施) ・学習、生活、特技交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を活用した特別な教育的支援を必要とする児童生徒についての実態交流	
4月	新入学生徒を含む全生徒の生徒指導に係る配慮事項等の交流及び情報共有 中1ギャップ問題未然防止委員会の設置	新入学児童を含む全児童の生徒指導に係る配慮事項等の交流・情報共有 中1ギャップ問題未然防止委員会の設置
	第1回いじめ防止対策委員会(「中1ギャップ未然防止プラン」の確認・検討) ・学習規律・学習習慣等の交流(小中学校における実態交流及び課題の共有) 第1回中1ギャップ問題未然防止連絡会議(小中連携会議、児童生徒交流、共有) ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討	
5月	「6年生登校」の開始(年間20日) ・中学校教員による小学校第6学年児童への乗り入れ授業の実施 ・中学生及び小学校第6学年による合同避難訓練の実施 第2回中1ギャップ問題未然防止連絡会議(小中連携会議、児童生徒交流、共有) ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討	
6月	第3回中1ギャップ問題未然防止連絡会議(小中連携会議、児童生徒交流、共有) ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 第1回子ども理解支援ツール「ほっと」の実施(小・中学校全クラス実施及び実施校での分析) 様似町小中学校一貫教育教科別系統表の改善に係る協議	
7月	小学校6年生の歌声交流会への参加 第1回子ども理解支援ツール「ほっと」の分析結果交流(小・中学校全クラス実施及び実施校での分析) 第4回中1ギャップ問題未然防止連絡会議(小中連携会議、児童生徒交流、共有) ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 「心と身体のチェック」の実施(夏季休業前)	
8月	第2回いじめ防止対策委員会 ・学習規律・学習習慣等の交流(共通実践の検討) ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 「心と身体のチェック」実施(夏季休業後) 自殺予防教育プログラムの実施 ・自殺予防プログラムの実施に係る校内研修 ・中学校第1学年の特別活動の時間において3時間実施	

9月	<p>第5回中1ギャップ問題未然防止連絡会議(小中連携会議、指導生徒交流、共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 ・「心と体のチェック」の結果を活用した個人面談の実施 ・様似町小中学校一貫教育教科別系統表の改善に係る実態の交流
10月	<p>第6回中1ギャップ問題未然防止連絡会議(小中連携会議、指導生徒交流、共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校状況等の交流・対策の検討 「心と体のチェック」の結果を活用した個人面談結果の共有
11月	<p>第7回中1ギャップ問題未然防止連絡会議(小中連携会議、指導生徒交流、共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 小学校第6学年と中学校第3学年との総合的な学習の時間の合同実施
12月	<p>第2回子ども理解支援ツール「ほっと」の実施(小・中全クラス実施及び実施校での分析)</p> <p>小学校第6学年の、中学校総合発表会への参加</p> <p>第8回中1ギャップ問題未然防止連絡会議(小中連携会議、指導生徒交流、共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 <p>令和5年度中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会</p> <p>「心と体のチェック」の実施(冬季休業前)</p>
	<p>自殺予防教育プログラムの実施 (第1学年の特別活動で3時間実施)</p> <p>自殺予防教育プログラムの実施 (第1学年の特別活動で1時間実施)</p>
1月	<p>3日連続の「6年生登校」の実施(ロングラン登校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校第6学年の「学年末テスト」の実施 小「英語deトライ」中「Englishトライアル」の合同実施 新入生学校説明会の実施 ・体験授業(総合的な学習の時間) ・入学説明(中学校の生活、心得やきまり等の説明) 子ども理解支援ツール「ほっと」分析結果の交流 児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 「心と体のチェック」の実施(冬季休業後)
2月	<p>第9回中1ギャップ問題未然防止連絡会議(小中連携会議、指導生徒交流、共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 「心と体のチェック」の結果を活用した個人面談の実施
3月	<p>第3回いじめ防止対策委員会(「中1ギャップ未然防止プラン」の確認・検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中1ギャップ防止プラン」の検証と次年度に向けた取組の検討 ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 新入生生徒に関する引継 ・学習、生活、交友関係等の状況及び配慮事項について ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を活用した特別な教育的支援を必要とする児童生徒についての実態交流

5 事業の成果

加配教員を配置したことによる成果

- ・加配教員を中心に、子ども理解支援ツール「ほっと」の分析を行い、小・中学校で情報共有することにより、発達支持的な生徒指導に生かすことができた。また、推進地域における「6年生登校」、小・中学校合同による各種行事及び校内研修の企画、連絡調整等を行うことにより、小・中学校間で取組に係る詳細な情報共有がなされるとともに、「6年生登校」における中学校教員の乗り入れ授業の実施教科数の拡大、小中一貫教科別系統表の改善案を作成するなど、中1ギャップ未然防止の取組について、小・中学校が連携し、系統性を意識して推進することができた。

- ・中1ギャップ問題未然防止連絡会議において、児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討を行うとともに、加配教員が積極的に生徒指導上の課題をもつ生徒への支援を行うことにより、第1学年の学級担任の生徒指導に係る負担軽減につながるなど、組織的な生徒指導を行うことができた。

効果的な教育課程の改善

- ・「6年生登校」において、小学校第6学年児童が、中学校の教職員による乗り入れ授業を受けたり、中学校の行事へ参加したりすることにより、中学校での学習の進め方、学習規律及び生活のきまりを知り、中学校入学後の見通しや期待をもつことができた。
- ・小・中相互の乗り入れ授業の実施及び参観により、教職員がそれぞれの校種において、どのような指導を行っているかについて理解を深め、発達の段階に応じた指導や支援のあり方について共有することができた。
- ・小・中学校の教員が、「様似町小中学校一貫教育教科別系統表」を基に、児童生徒の学習のつまづきが起こる学年、教科、単元等を分析し、中学校において、生徒の習熟の状況に合わせ、下学年の復習を取り入れる時間を設定するなど、学び直しの機会を設定することができた。

アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

- ・中1ギャップ問題未然防止連絡会議において、夏季休業前及び夏季休業後に実施した「心と身体のチェック」の結果を分析し、否定的な回答や気になる記載が見られた生徒に対し、早期に教育相談を実施することにより、生徒の悩みについて早期発見、早期対応することができた。
- ・加配教員が「心と身体のチェック」の結果について、中学校の全教職員へ情報共有したことにより、悩みをもつと考えられる生徒への組織的な支援を推進することができた。また、小・中学校で分析結果の共有及び蓄積を行うことにより、児童生徒の回答内容の経年変化を意識した生徒指導の効果を高めることができた。

6 今後の課題と対応

9年間を見通した系統的な指導の推進

- ・義務教育9年間を見通した系統的な指導を行うことを目的に、異校種で乗り入れ授業を行う機会を設定したり、「6年生登校」の際に、中学校教員による乗り入れ授業を、従来の4教科から8教科に増やしたりするなど、小中一貫校の特性を生かすことにより、教職員に対して9年間を見通した系統的な指導への関心を高めることができた。しかし、乗り入れ授業の参観や授業実施が一部の教員にとどまっていることから、中1ギャップの解消を目指した教育課程の在り方について、小・中学校の全教職員の関心を高めることができるよう、方策を検討する必要がある。
- ・様似町が目指す児童生徒像に基づいた教育課程の編成について、小・中学校の教員間で共通理解が十分でなく、小・中学校における一貫した指導に課題が見られることから、児童生徒の発達の段階に応じた系統的な学習を保証するため、各種調査及び児童生徒の学習評価等の客観的なデータを基に、9年間を見通した系統的な教育課程の改善に積極的に取り組む必要がある。

北斗市立上磯中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	北斗市立上磯中学校	(生徒数 465 名)
小学校名	北斗市立上磯小学校	(児童数 391 名)
	北斗市立久根別小学校	(児童数 338 名)
	北斗市立谷川小学校	(児童数 89 名)
	北斗市立沖川小学校	(児童数 6 名)

1 推進地域の状況

北斗市立上磯中学校は函館市を除く渡島管内で最大の生徒数を抱える学校である。数十年前から函館市のベッドタウンの役割を果たし、北斗市外からの流入者も多い。校区が広範囲に及び自転車通学が許可されていることから、片道5kmを通学している生徒もいる。

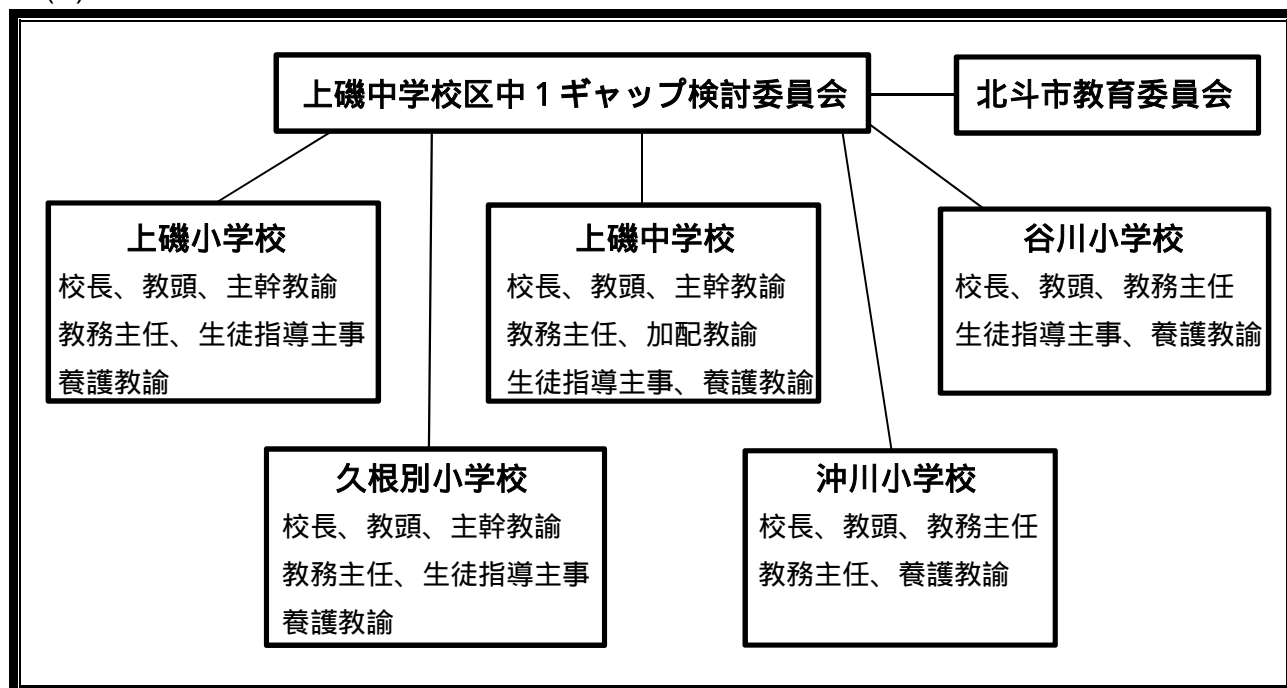
推進地域においては、宅地造成が一段落し、ここ数年は小・中学校の児童生徒数も急速に減少しつつある。各小学校において、学校生活に適應できない児童が各学年に在籍し、学年が上がるほど増加する傾向にある。特に、中学校第1学年後半以降、生活環境や人間関係、学習に伴う課題など様々な要因で、長期欠席の生徒が多くなる現状である。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・「中1ギャップ検討委員会」を効果的に実施することで、中学校区の小・中学校間の連携体制を構築し、不登校児童生徒数の減少と生徒指導上の諸課題を解決する。
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」「ほっとプラス」「心と身体のチェックリスト」などの客観的なデータを活用し、生徒指導上の諸課題を中学校区の小・中学校で共有し、生徒指導上の諸課題への未然防止の取組の充実を図る。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図




(2) 事業推進体制の整備に関する取組



- ・「中1ギャップ検討委員会」を定期的を開催するとともに、事業内容を教育課程に位置付ける。
- ・中学校区の小中連携サポート委員会と連動させ、定期的に情報共有する。
- ・ICTを効果的に活用した取組を実践するとともに、会議等で成果等を共有する。
- ・SC等を講師とした小・中学校合同研修会を計画・実施する。

(3) 加配教員の役割

- ・子ども理解支援ツール「ほっと」「ほっとプラス」「心と身体のチェックリスト」、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査、生活アンケートの実施及び分析を行い、教育相談や校内での情報共有等に活かす。
- ・小中連携の「クリーン作戦」「歌声集会」に関する各学校間の連絡調整、運営を行う。
- ・校内の「絆プロジェクト」の企画・運営を行う。

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	上磯中学校	上磯、久根別、谷川、沖川小学校
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入学生に関する職員会議 ・ ステップルーム開設（前年度より継続） ・ マイウェイ（北斗市適応指導教室）対応開始 ・ 対面式、部活動体験入学 ・ クリーン作戦打合せ ・ 全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査の傾向の共有（職員間） ・ 絆プロジェクト <いじめ撲滅に関するプロジェクト>の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステップルーム開設（前年度より継続） ・ 全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査の傾向の共有（職員間） ・ 保護者懇談会
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> 中1ギャップ問題関係機関会議 <教育局、市教委、学校>（4月25日） </div>		
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマホ・インターネット教室 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> クリーン作戦 <小中連携>（5月13日） </div>		
		地域の清掃活動を行いました。中学生と小学生が連携して取り組むことで、人間関係の構築を果たすことができました。
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめアンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめアンケートの実施
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> 情報機器利用制限期間 <小中連携>（6月16日～29日） </div>		

7月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談<生活アンケート実施> ・絆プロジェクト <いじめ撲滅に関するプロジェクト>の実施 ・「ほっと」の実施 ・「心と身体のチェックリスト」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 小中連携サポート委員会 <NRTテストの結果交流・上中校区スタンダードの確認・各小中の学校状況の交流> (7月10日) </div>		
8月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 情報機器利用制限期間 <小中連携> (8月22日～9月7日) </div>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・「心と身体のチェックリスト」の実施 ・いじめアンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・絆プロジェクト <いじめ撲滅に関するプロジェクト>の実施 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 情報機器利用制限期間 <小中連携> (10月31日～11月15日) </div>		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談<生活アンケート実施> ・「ほっと」の実施 ・いじめアンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 小中連携歌声集会 <上磯小第6学年と上磯中第1学年> (11月11日) </div>		
		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第1回 中一ギャップ問題未然防止事業 <運営委員会> (11月16日) </div>		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっとプラス」の実施 ・「心と身体のチェックリスト」の実施 ・絆プロジェクト <いじめ撲滅に関するプロジェクト>の実施 ・新入生保護者説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生保護者説明会の実施
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第2回 中1ギャップ問題未然防止事業 <運営委員会> (12月14日) </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 小中連携サポート委員会 <全国学力・学習状況調査の結果・次年度の事業の検討> (12月20日) </div>		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・「心と身体のチェックリスト」の実施 ・「ほっと」の実施 	

2月	・「ほっとプラス」の実施 ・絆プロジェクト <いじめ撲滅に関するプロジェクト>の実施	・アセスの実施
	情報機器利用制限期間 <小中連携> (2月2日~15日)	
	小中連携 小学校訪問 <各小学校授業参観> (2月14日~16日)	
	小中連携サポート委員会 <入学前準備課題・体験入学提案・引継ぎ資料・各校の交流> (2月下旬)	
3月	・新入生に関する引継	
	新入生体験入学 <上磯中学校> (3月5日~6日)	

5 事業の成果

加配教員を配置したことによる成果

- ・加配教員を中心に、「ほっと」「ほっとプラス」や生活アンケート等の調査結果の分析を行い、校内で情報共有を図ったことにより、生徒理解や人間関係の構築に役割を果たした。生徒会を中心とした「絆プロジェクト」の円滑な運営を行うことができた。

効果的な教育課程の改善

- ・推進地域における目指す子どもの姿の実施に向け、9年間を見通した教育課程を改善したことにより、学習面や生徒指導面において段差のない指導を行うことができた。

アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

- ・アンケートの結果において、否定的な回答が見られた生徒に対して教育相談を実施したことにより、生徒の心や身体の状態を具体的に把握することができた。
- ・実施する時期によって異なる結果が見られたことから、教育活動の成果や生徒の状況を把握し、課題を解決するための対策を検討することができた。

6 今後の課題と対応

小・中学校9年間の継続的な指導の推進

- ・授業スタイルや、学習や生活のルールを統一して取り組んでいるが、指導する教員や学校によって差が見られることから、定期的な交流や状況の把握によって計測的な指導を推進する必要がある。

不登校児童生徒減少に向けた対策の充実

- ・小中連携を通して様々な取組をしているが、年々不登校生徒が増加していることから、「ステップルーム」、リモート授業の活用や、外部機関と連携するとともに、各種アンケートや日々の学校内でのコミュニケーションの充実や相談活動の充実を図る必要がある。
- ・教育相談期間を新たに設け、より一層生徒の思いや考えを把握する必要がある。